

【本校が目指す学力とその支援策】

本校では、文部科学省が示す「新学習指導要領」に従いつつも形式にとらわれず、これからの社会で必要とされる学力の定着を目指し教育活動を進めています。

よく「確かな学力」という言葉が使われますが、それが日頃の学習とどのような関係にあるのかをお示ししたいと思います。

○学び続けることの価値

これからの未曾有の激しい変化が予想される社会において、一人一人に困難な状況に立ち向かうことが求められてきます。そのために学校教育は、個性を發揮し、主体的・創造的に、未来を切りひらくたくましい人間の育成を目指し、直面する課題を乗り越えながら生涯にわたり学び続ける力をはぐくむことが必要となります。

○学びに向かう力が基本

このために子どもたちに求められる学力としての「確かな学力」とは、①知識や技能はもちろんのこと、②自分で課題を見つけ、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力等が求められ、③それらの力が育まれてこそ、子どもたちが「これからどのように社会や世界と関わり、よりよい人生を送るか」を主体的に考えることができると考えます。

○学力の定着を測るテスト

中学校になると、確認テストをはじめ様々なテストを受けることとなります。それぞれのテストには、それぞれ測ろうとする学力があり、そのテストの特性を生かして、その定着を見ていくこととなります。もちろんテスト結果が良いことに越したことはありませんが、大事なものは、そのテスト結果から不足している学力に気づき、補っていくことです。

本校では、通知表においては「観点別評価」を重要視したり、校内テストでの順位づけを廃止したり、さらには定期的に教科担任による面談を実施したりしながら、生徒の学力が確実に育まれるよう支援していきます。

